

地域資源を活用した半島振興ワークショップ

－半島のじかん2016 in津軽－ の開催報告

国土交通省 国土政策局地方振興課 半島振興室

国土交通省は、平成27年3月に改正された半島振興法を踏まえ、地域公共交通機関である地方鉄道を活かした半島地域の振興をテーマとするワークショップを、平成28年2月13日（土）に青森県五所川原市「金木商工会館」にて開催いたしました。

当日は、津軽半島地域のまちづくり団体のメンバーや行政、鉄道事業の担当者、学生など県内外から40名以上の方にご参加頂きました。以下に開催の概要をご紹介します。

○ウェルカムセレモニーとストーブ列車への体験乗車

五所川原駅前にあるコミュニティカフェ「でる・そ〜れ※」において参加者をお迎えし、津軽鉄道株式会社澤田社長よりウェルカムスピーチを頂きました。その後、参加者は、津軽鉄道ストーブ列車に乗り、ワークショップ会場のある金木駅まで移動しました。車中では、津軽半島観光アテンダントによる方言をまじえた沿線紹介、ダルマストーブでのス



参加者が乗車した
津軽鉄道ストーブ列車



ダルマストーブでスルメを焼く風景



車内販売を行った五所川原農林高校
の生徒の皆さん

ルメ焼き、五所川原農林高校が製作した「みそドーナツ」の生徒さんたちによる販売が行われました。30分程の乗車でしたが、ストーブ列車の雰囲気を体験し、その魅力に存分に触れることができました。

※平成21年に地元の女性たちが中心となり開設。奥津軽地域の産品を活用した商品開発を行うほか、住民と観光客、地元農家と消費者をつなぐイベントや体験ツアーを実施。

○地方鉄道を活用した地域振興の先進事例スタディ（プログラム第1部）

津軽鉄道を活用して地域で何ができるか参加者が考えるきっかけづくりとして、地方鉄道を活用した先進事例について3名の有識者から講演をいただきました。また、主催者を代表して、津島大臣政務官よりご挨拶いただきました。

講演では、初めに、鳥取県にある若桜（わかさ）鉄道株式会社の山田社長より「若桜鉄道の事業戦略－若桜谷の観光による地域活性化」と題して、SWOT（強み、弱み、プラス外部要因、マイナス外部要因）分析を用いたプロジェクトの立案手法、ターゲットを絞った事業戦略の立案の重要性などについてご紹介頂きました。

次に、公益社団法人鹿児島県観光連盟の川窪部長より「観光はお客様に感動の体験を提供すること－肥薩おれんじ鉄道－」と題し、熊本県八代と鹿児島県川内を結ぶ同鉄道に観光列車おれんじ食堂を導入するまでの取組として、地元食材を使った地元料理人による料理の開発、レストランのような食堂車への既存車両の改修、外国人も含めたお客様の心情に立ったきめ細やかな接客サービスなどについてご紹介頂きました。

最後に、弘前大学の大野氏より「楽しい津軽LIFEを送るために私たちができること－学

津島国土交通大臣政務官
より主催者挨拶



有識者による講演の様子

生サークルH.O.T Managersの活動について」と題して、地域の公共交通を便利で魅力にして暮らしやすいまちにしていく「交通まち育て」の取組、学生・利用者目線の活動によるきっかけづくりや新しいつながりの形成などについてご紹介頂きました。

○グループワーク「津軽鉄道と地域の魅力づくりを考える」(プログラム第2部)

有識者よりご紹介いただいた先進事例も参考にして、津軽鉄道を利用した地域の魅力アップのためのヒントを探るグループワークを実施しました。

津軽鉄道サポーターズクラブの高瀬会長より「津軽鉄道の現状と課題、活性化の取組」についてご紹介頂いた後、参加者は5グループに分かれ、各グループにおいて、①津軽鉄道を利用してもらうターゲットを具体的に設定、②設定したターゲットに対する津軽鉄道や地域のSWOT分析、③分析を踏まえて津軽鉄道を利用した地域活性化アイデアの洗い出し、④洗い出したアイデアから一つを選び事業プランを考案、を行いました。

各グループとも、1時間以上に渡り、真剣な表情あり、笑顔ありと議論を重ね、最後にそれぞれが考案した事業プランについて発表を行って頂きました。発表では、

- ・県内の学生をターゲットとして津軽鉄道の各駅に独自のスイーツを開発する、
- ・自転車愛好者をターゲットとしてロードバイクと津軽鉄道が並走して競争するイベントを開催する、
- ・沿線の小学生をターゲットとして津軽鉄道を学校に見立て、電車の乗り方を学んだり、

車両内での授業を実施する、

- ・結婚に踏み切れない20～30代のカップルをターゲットとして津軽鉄道に乗れば結婚が成就するとのプロモーション活動を実施する、
 - ・台湾人観光客をターゲットとして台湾人の興味を引くPR映像を制作する、
- とのアイデアが紹介されました。

最後に、大分大学経済学部の大井准教授より、これまでの交通に関する「常識」を転換し、時代のニーズをしっかりと把握した上で、鉄道事業者、地域住民、行政、経済（観光）セクターの4者の連携と役割分担が重要との総括をいただきました。

○おわりに

今回のワークショップでは、半島地域にある地域資源として地方鉄道を取り上げ、その活用方策について知見を共有するとともに、地元の関係者により地域活性化のための様々なアイデアを発掘しました。また、半島地域の振興のために様々な分野の方々が一同に介して共同作業を行ったことで、今後とも半島地域の活性化を継続して実施、発展させていくためのネットワーク形成にも寄与できたものと考えています。国土交通省半島振興室としましては、今回のワークショップの成果をしっかりととりまとめ、広く周知することで、今後、多くの半島地域において、地元行政、住民、民間企業、団体、近隣地域までも取り込んだ多様な主体が一体となり、半島地域の魅力ある地域資源を掘り起こしていく活動が展開されていくことを期待しています。



グループワークにおける議論の様子



各グループが考案した事業プランの発表の様子